

※今月のみ受注の書目です。

デザイン／建築

プロジェクトイスタの控えめな創造力 平積み
イタリアンデザインの静かな革命 (2024 年 10 月下旬刊行予定)

多木陽介（批評家、アーティスト）[著]

四六判並製／296 頁 税込予価 4,180 円 ISBN978-4-7664-2985-5 C3072

 ココに注目！

- ・消費主義社会に一石を投じる「退行的デザイン論」。
- ・イタリアンデザインの再評価から物作りの核心に迫る。
- ・人類史的視点でクリエイションの未来を拓く。

デザイン黎明期の戦後イタリアで「作る人（ホモ・ファーベル）」の尊厳を守り続けたデザイナーたちがいた。人間性豊かな彼らの仕事から現代のクリエイションへの光明を探る。その理念、探究、継承に迫る思索の記録。

対象 デザイナー・建築家、一般（まちづくりに関心のある層）

類書 【デザイン】ブルーノ・ムナリ『モノからモノが生まれる』（みすず書房）

【建築】大西麻貴+百田有希 /o+h『愛される建築を目指して』（TOTO 出版）

【営業部からのおすすめポイント】

「デザイナー」という職業が確立する以前の戦後イタリアで、建築や生活用品、または教育の現場でその役割を果たした人々がいました。しかも彼らは、自らを「プロジェクトイスタ」と名乗り、現代のデザイナーよりもはるかに創造的で、かつ暮らしに寄り添ったクリエイションを担っていました。本書はそんなプロジェクトイスタの仕事を再考するデザイン論として、環境危機や社会問題に向き合う現代のデザインや建築、クリエイションに創造的な示唆を投げかける一冊です。 (乙子)

 著者略歴、目次、注文書を裏面に掲載！ ぜひご確認ください！

【著者紹介】

多木陽介（たき・ようすけ）

1962 年生まれ。早稲田大学大学院文学研究科芸術学（演劇）専攻博士課程中退。1988 年に渡伊、現在ローマ在住。渡伊後は、演劇活動や写真を中心に各地で展覧会を行う。近年は自然・社会・精神のエコロジーを主題に、執筆・翻訳活動の他、展覧会の企画、刑務所内での文化活動、そして現代イタリアで「控えめな創造力」の実践者を訪ね歩く教育活動「移動教室」に取り組む。

著書に、『失われた創造力へ——ブルーノ・ムナリ、アキッレ・カスティリオーニ、エンツォ・マーリの言葉』（どく社、2024 年）、『（不）可視の監獄——サミュエル・ベケットの芸術と歴史』（水声社、2016 年）、『アキッレ・カスティリオーニ——自由の探求としてのデザイン』（アクシス、2007 年）。訳書に、アンドレア・ボッコ『バーナード・ルドフスキー——生活技術のデザイナー』（鹿島出版会、2021 年）、アンドレア・ボッコ、ジャンフランコ・カヴァリア『石造りのように柔軟な——北イタリア山村地帯の建築技術と生活の戦略』（編訳、鹿島出版会、2015 年）ほか。

【目次】

- 第 1 章 物の時代の終わり——世界から手を引いた人間の肖像
- 第 2 章 創造力の現在——危機的状況と可能性
- 第 3 章 「物」という歴史を繙く——物を言語として読みとる作り手たち
- 第 4 章 やることで理解する——包括的な知性／創造力の回復を目指して
- 第 5 章 根源への下降——技術至上主義からの脱却
- 第 6 章 20 世紀のプリコラージュ——未開社会起源の控えめな創造力
- 第 7 章 透明さへの衝動——控えめな創造力の中に蠢く合理主義の思想
- 第 8 章 「誘導の科学」というパンドラの箱——コミュニケーションの技術化の果てに
- 第 9 章 日本にもたらされたプロジェッタツィオーネ——城谷耕生の仕事
- 第 10 章 拡大された創造力論へ——自然を創造力の主体として受け入れる



ご注文は FAX で！ 03 — 3451 — 3124



新刊委託	番線	ご注文部数	発行所：慶應義塾大学出版会	税込予価	部数
			多木陽介 著 プロジェッティスタの控えめな創造力 ーイタリアンデザインの静かな革命 I S B N 9 7 8 - 4 - 7 6 6 4 - 2 9 8 5 - 5 C 3 0 7 2	4,180 円	★★★

★1 つで「500 部」を表します